NEWS

弊社の元代表取締役社長の蓮佛亨氏が2020年6月18日に90歳で逝去されました。

蓮佛亨氏

蓮佛 亨さんを偲んで

代表取締役会長　川下晃正

56年前、初めてお会いした蓮佛さんは、技術担当の常務取締役で、スマートな身体に長髪で、いかにも建築家という風貌であった。私は入社早々、蓮佛さんに「名建築とはどういう建築をいうのですか」という問いをぶつけた。社内でワイワイと大変な論議になった。数日して蓮佛さんが「これを読め」と言って、「エンゲルスの芸術論」という本をくださった。聞くと大学時代には学生運動に熱心だったという。野球部出身でノンポリ右翼の私には別世界の人だった。

蓮佛さんは普段は非常に温厚な方であるが、ちょっとでも人の道に外れるようなことを言うと「君、それは駄目だよ」と人が変ったように怒った。そんな純粋な気持ちと節を曲げない人間性を信頼する人は多かった。

建築設計と合わせて、良い町をつくる、設計事務所の社会的地位を高めることが蓮佛さんのもう一つのライフワークであった。そのためにまちづくり運動に積極的に関わり、建築設計監理協会の設立に熱心に取り組まれた。私もいつしか蓮佛さんと一緒に参加するようになった。技術至上主義で、鼻持ちならない人間だった私は、この運動を通じていろいろな人と交流することで人間性を磨くことができた。母親が「良い大人になった」と言ってくれた。蓮佛さんのお陰である。

蓮佛さんはその後社長に就任されたが経営には全く疎い人で、会社はいつも火の車であった。30年前のある日、いきなり「川下君、あとを頼む」と言われた。火の車の会社を辞めようと思っていたのに、不思議なことに断わろうという気にならなかった。ここが蓮佛さんの不思議なところである。

腹をくくって社長に就任して、会長・社長というコンビで走り回った。職員たちも協力してくれた。幸いなことに良いお客さんに恵まれて経営は劇的に改善した。「もう大丈夫だ。後は任せた」と言って引退されて久しいが、毎年、株主総会の報告を聞いて「よくやっている。結構！結構！」と言って喜んでくださった姿が瞼に残っている。

蓮佛さんとともに確立した「住む人、使う人の立場にたって」という京都建築事務所の理念は、蓮佛さん亡き後も生き続けます。

ありがとうございました。安らかにお休みください。

蓮佛　亨（れんぶつ　とおる）略歴

1930年　鳥取県に生まれる
1953年　京都工芸繊維大学建築学科卒業
1953年　鳥取市復興局勤務
1957年　京都建築研究所入社（京都建築事務所の前身）
1963年　京都大学西山研究室（2年）
1972年　（株）京都建築事務所　代表取締役社長就任
1990年　（株）京都建築事務所会長就任
1995年　京都の近代建築を考える会代表就任
1996年　（株）京都建築事務所相談役就任

著書

『京の民家』『京の風情』『続 京の風情』
『老いても自立住まい改造の手引』『京都百景』

藤井厚二の代表作といえば大山崎にある聴竹居が有名ですが、大阪府寝屋川市には聴竹居竣工後の作品である八木邸が現存しています。月に一度一般公開しているので興味ある方はご参加ください。八木邸の保全活動の一環でガイドを行いましたが、分かりやすい説明は難しく日々勉強です。

波多野 巧　Takumi Hatano

おかげさまで60周年
京都建築事務所

Editors
富永 斉美　Hitomi Tominaga
浜口 直子　Naoko Hamaguchi
中村 円香　Madoka Nakamura

お問い合わせ・ご相談は

株式会社 京都建築事務所

〒604-8083
京都市中京区三条通柳馬場東入中之町10番地
TEL:075-211-7277　FAX:075-211-7270
ホームページURL　http://www.kyoto-archi.co.jp/
メールアドレス　info@kyoto-archi.co.jp

とれみvol.48 2020年11月発行

とれみとは、ラテン語の「tres(3)」と日本語の「笑み」
—施主、施工者、設計者—　三者の笑みを表しています。

京都建築事務所ニュース

とれみ

Vol.48 2020 Autumn

幼稚園型認定こども園
大谷幼稚園・こども園

福岡県久留米市　20年3月竣工
施主　学校法人 久留米大谷学園
施工　株式会社 栗木工務店
木造地上2階建

外観玄関前園庭

「本願に生き、ともに育ちあう幼稚園」を実践する場所づくりとして、人と人のつながりを感じ、人と人がふれあうことを誘発するような空間づくりをコンセプトに設計しました。いえの集合体としての園舎、五感に働きかける園舎をテーマにし、各保育室をいえと見立て、室内外に様々な発見を生み出す仕掛けをちりばめています。
（森下・富永・伊達）

5歳児保育室

協立歯科診療所

山口県宇部市　20年3月竣工
施主　医療生活協同組合 健文会
施工　株式会社 島田工務店
木造地上2階建

外観南西面

一般ユニット10台と個室ユニット1台を有する歯科診療所です。一般ユニットも各々のブース毎に廊下から直接出入りできる引戸を設け、個室化することでプライバシーの確保と診療環境の向上に努めています。待合室は勾配天井にハイサイドライトを設けた吹き抜けで、木質内装材を多用した明るく開放的な空間です。外観はシンプルな切妻屋根で、瀬戸内の明るい空と海をイメージした青と白でまとめています。
（宮本・馬場）

1階待合

村山造酢 株式会社 南丹工場

新築工事

京都府南丹市　2020年4月竣工
施主　村山造酢 株式会社
施工　野口建設 株式会社
木造地上1階建

外観

設計趣旨

酢酸発酵室

発酵検定室

村山造酢株式会社は長年にわたり、京都東山三条にて製造を続けてこられましたが、さらなる事業展開を行うため、京都府南丹市に工場を新築することになりました。

食酢の製造はお酒に種酢（酢酸菌）を加え、酢酸発酵を行いますが、酢酸菌（酸性）によるコンクリートや鉄の腐食を考慮し、構造は木造を採用しました。平屋の建物ですが、タンクを設置するなど内部空間に十分な高さが必要なため、２層分のボリュームとなっています。外観は本社工場の雰囲気を継承できるよう「蔵」をイメージし、外壁や腰壁の色彩、軒形状を工夫しています。
（細見・山根）

1997年の本社工場建替え

京都東山三条の本社工場は1997年に弊社設計のもと建替えを行いました。建替え前の建物は大正時代から続く建物でしたが、阪神・淡路大震災の被害を受け、建替えを決意されました。「前の建物の雰囲気を何とか残したい」という村山社長の想いを実現した結果、本社工場は京都市都市景観賞を受賞しております。一方で醸造蔵は、蔵の土壁に棲む酢酸菌に変化がでないよう、補強を行い現在も使い続けられています。

本社工場外観

本社工場応接室

voice

代表取締役社長
村山 忠彦 様

取締役
村山 浩一 様

当社は江戸享保年間（1716 ～ 1730）に京都三条にて創業し、千鳥酢という銘柄で食酢の製造を行っています。

この度、工場を建設した南丹市は京都府のほぼ中央に位置します。京都府は東北や北陸とならび非常に品質の高い米を生産しており、中でも南丹市は、昨年の皇位継承の儀である大嘗祭で使用する米の斎田として選ばれるほど良質の米がとれる地域です。米は米酢の主原料であり、良い米のとれる産地の近くで醸造したいという思いから、南丹市に新工場を建てる計画が始まりました。そこで父が23年前に本社社屋の建て替えを行った際にお世話になった京都建築事務所様に相談し、設計を依頼することになりました。

新工場を設計するにあたり①工程間がコンパクトであり、動線が効率的であること②醸造設備は大きい為、設備更新を行い易いよう、空間と開口部を大きくとること③周辺地域に馴染み、本社社屋のイメージの醸造蔵らしさがあること、の三点を軸に京都建築事務所様に設計をしていただきました。おかげさまで作業しやすい、木造づくりの温かみのある醸造蔵に仕上げていただけました。

南丹工場は計画・設計から操業開始まで３年余りをかけた、当社にとって大きな挑戦でした。京都建築事務所様や建築会社様、お米の生産者を始めとする南丹市の皆様のおかげでこうして日々 醸造を行え、社員一同幸せに感じています。 これからも今まで以上により良い製品を作っていきたいと考えております。

（取締役　村山浩一様）